

祭 文

従一位 大勲位 菊花章頸飾、第九十代、九十六代 九十七代
九十八代内閣総理大臣、第二十二代、二十五代自由民主党総裁で
あらせられました安倍晋三先生の神霊に謹んで申し上げます。

安倍先生！

安倍晋三先生と云う偉大な政治指導者を、我々日本国民が失ってから
二年の歳月を迎えようとしております。

先生は、日本の首相として、日本史上歴代最長の通算八年八ヶ月に
わたり国政を執られ、その間、東日本大震災からの復興、日本経済
の再生、日米関係を重視した戦略的外交を主導し平和と安寧秩序の
構築に貢献されました。それは、わが日本のみならず、世界の国々
に明るい希望と未来を差し示すものでありました。

その安倍先生を失ってからの日本は残念ながら、本当に残念ながら
扼腕切齒をせざるを得ない状況が続いております。

「歴代最長」という言葉。それは単に「長い」と云う期間を示すも

のでは無く、客観的な尺度で申し上げますと【国民から最も愛され、最も長く信任された首相】であると言えるのではないのでしょうか。

令和四年七月八日、二発の銃声が空に轟^{とどろ}き、そして、あの日、あの安倍先生を失った日、日本国民全員が、先生の遺族となってしまうたのでありました。事件は民意を問うための選挙の演説を遮るかのよう^{にら}に起りました。応援演説で大和西大寺へお越しくくださった安倍先生がマイクを握り、演説をされている背後から犯人は忍び寄り、先生を銃撃したのでありました。

我々はこの議会政治の根幹を揺るがす暴力的行為を決して許すことは出来ません。

犯人の狙いとは何か？未だその真相は明らかにされておりません。

犯人の供述を伝え聞く処によると、自分勝手な理由から妄想をふくらませ、八つ当たりの犯行に及んだということでもあります。それが、真実であるかどうかは、まだ分かりません。しかし、そんな理由で、この稀代の英雄を我々日本が失^{にら}ってしまつて良いのでしょうか？怒りと戸惑いを多くの人が感じたのではないのでしょうか。

事件二日後、私は有志らと共に、花を手向けるため事件現場を訪ね

ました。それは、安倍先生が最期に御覧になられた景色を、私もこの目で確かめておきたかったからに他なりません。焼けつくような暑い日でした。我々が目にしたものは、何キロにもわたる長蛇の列。安倍先生の最期の現場をひと目でも目に焼きつけ、その場所に花を手向けたいと思う人々の群れがそこにありました。

しかし、その事件現場には、今も一柱^{ひとしら}の石柱^{せきちゆう}を建てることすら出来ない現実が横たわっています。

私は本日この慰霊祭を齋行するにあたり、関係各位のひとかたならぬ御高配を賜り、六月二十五日に、東京・有楽町で安倍昭恵夫人と直接お逢いすることが叶いました。安倍先生が御生前、板垣退助の百回忌の時に位牌の裏に彫るため、「板垣死すとも自由は死せず」と揮毫して下さった時のこととお話しし、お書きくださったものをお見せしました。昭恵夫人は安倍先生の墨蹟をたどるように優しい目で御覧になられ、そして、その場で昭恵夫人は私に「愛と感謝」という言葉を揮毫してくださいました。

また本日の慰霊祭齋行にあたって昭恵夫人は、「皆さまが主人を思い、慰霊祭を執り行つて下さることに、主人も喜んでいることと思います。七月六日は、私は伺えませんがよろしくお願い致します。また、

板垣先生のお位牌のある高知にもいつか伺えればと思っています」
とのメッセージをいただきました。

我々は言論を暴力によって遮るような社会であってはならないと考えております。本年は奇しくも自由民権百五十年の節目の年となりますが、自民党の源流を創った板垣退助もまた、文久三年京都での暗殺未遂事件をはじめとして、明治十五年岐阜、明治十七年東京・芝金杉川口町、明治二十四年は神田の錦輝館^{きんき}で演説中に暴漢が壇上にあがって襲いかかり、翌明治二十五年は神戸三ノ宮で拳銃で狙われるなど、著名なものだけでも計五回以上の暗殺未遂事件が知られ、憲政確立までの多難な時代に身を置きました。

省みれば、安倍先生もまた然^{しか}り。平成十二年六月から八月にかけ、御自宅や地元事務所に火炎瓶を投擲され命を狙われること五回、その他、妨害工作や印象操作など多難な試練の中、国策を考え、常にこれに向き合い、国民のために取り組んでこられました。

現今日本^{にっぽん}を取り巻く国際社会は暴力の渦巻く混沌の中にあり、安倍先生の目指された平和で「美しい国」日本を建設するヴィジョンが、先生の「志」がこんな暴力によって途絶えることがあってはならないと云う決意を胸に、志を同じくする者たちが本日集い侍り、先生

の御命日を前に、御遺徳を偲び慰霊祭を執り行ふ次第であります。

政治家として国に殉じられました安倍先生の神霊が、天翔けましても、我々どこの国のゆく末をみそなわし、また「万世一系の皇統を戴くこの皇国が諍い無く安寧を保ち、富み榮え、天壤とともに極まりなく続きますよう」御守り下さいますよう、護國の大神たちが神鎮まり坐す御社に於きまして乞い願ぎ奉り私の祭文と致します。

令和六年七月六日 一般社団法人板垣退助先生顕彰会

理事長 高岡功太郎